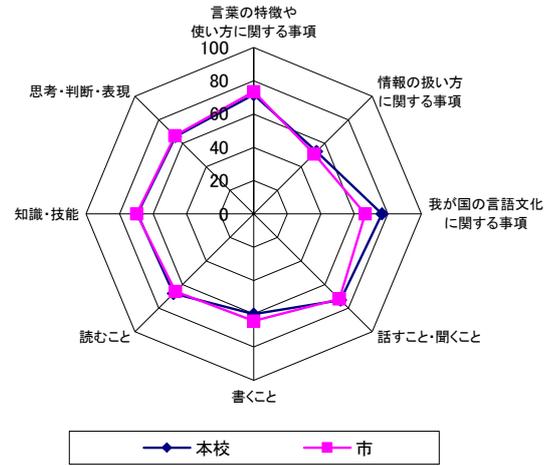


宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 71.7 | 73.5 | 74.4 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 52.9 | 51.0 | 51.5 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 76.5 | 66.5 | 68.8 |
| | 話すこと・聞くこと | 73.3 | 72.3 | 73.7 |
| | 書くこと | 60.2 | 64.3 | 66.6 |
| | 読むこと | 67.6 | 65.8 | 64.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 69.3 | 69.8 | 70.8 |
| | 思考・判断・表現 | 65.8 | 66.5 | 67.3 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

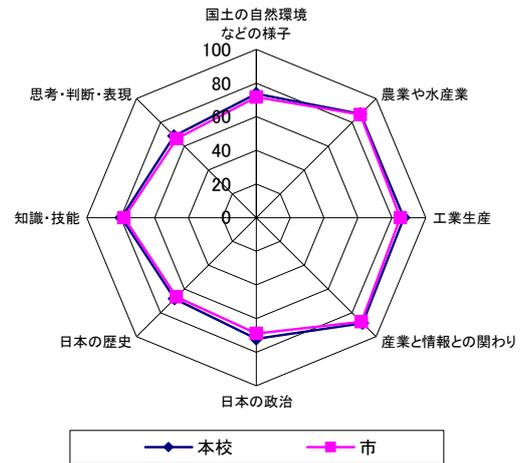
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、71.7%と市の正答率よりやや低い。 ○「第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。」の設問では、3問とも正答率が市の正答率を上回っていた。 ●「敬語について理解し、正しく使っている。」の設問では市の正答率を8.1ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・音読や読書など、漢字に多く触れる機会をもつとともに、漢字練習を継続的にできるように指導していく。合わせて、現学年だけでなく、前年度までの復習も行っていく。 ・日常的に敬語を使う意識をさせ、正しい使い方や場面を覚え、身に付くように指導していく。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、52.9%と市の正答率より高い。 ○情報と情報の関係についてよく理解できている。その上で、「文章の情報を整理している。」と「目的に応じて、文章を簡単に書いている。」の設問が、市の正答率より高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語以外の教科においても、資料から分かることを簡潔にまとめたり、目的や相手に合わせて文章を簡単に書いたりできるように、引き続き指導をしていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、76.5%と市の正答率を10ポイント上回っている。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。」の設問では、日常で使っている言葉を、和語、漢語、外来語に分類することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や本の中で使われている語句や、日常使っている語句について、意味や語源を国語辞典で調べる活動を取り入れ、言語文化に対する興味・関心が継続的に持てるようにしていく。 |
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、73.3%と市の正答率よりやや高い。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。」の設問では、目的意識をもって話を聞いたり、捉えた内容を自分の言葉で表現したりすることができ、良好な状況が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語以外の教科においても、目的に合わせて話し合い活動を充実させ、相手の話を聞くだけでなく、聞いた内容に対して自分がどのような考えをもっているかを伝えられるようにし、表現力を向上させていく。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、60.2%と市の正答率を4.1ポイント下回っている。 ○「目的や意図に応じて、書き表し方を工夫している。」の設問では、市の正答率を4.8ポイント上回っている。 ●「文章を書く」4つの記述式の正答率は、市の正答率より低い。中でも「予想される反論とそれに対する意見を書いている。」の設問では、市の正答率を15.3%下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意見文などの文章を読む機会を増やしたり、文章をくわしく書くために必要なことを確認したりして、文章表現を豊かにする素地を養うようにする。 ・指定された長さや段落構成で文章が書けるように、授業の中でも条件に合わせて書く時間を設定していく。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、67.6%と市の正答率より高い。 ○「叙述を基に文章の内容を捉えている。」の設問では、市の正答率を9.8ポイント上回っている。 ●「文章全体の構成を捉えて、要旨を把握している。」の設問では、市の正答率を8.2ポイント下回っており、文章のまとめ方やつながりを把握することに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に文章の内容を捉えることはできているので、文章全体の構成を捉えられるように、要旨をまとめる活動などを取り入れていく。 |

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| 領域別 | 観点別 | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 73.6 | 71.6 | 69.6 |
| | 農業や水産業 | 87.1 | 86.7 | 83.7 |
| | 工業生産 | 87.1 | 85.0 | 79.5 |
| | 産業と情報との関わり | 88.8 | 87.7 | 77.4 |
| | 日本の政治 | 72.1 | 68.9 | 71.7 |
| 観点別 | 日本の歴史 | 68.2 | 66.7 | 66.3 |
| | 知識・技能 | 79.6 | 78.0 | 76.7 |
| | 思考・判断・表現 | 68.7 | 66.4 | 63.1 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

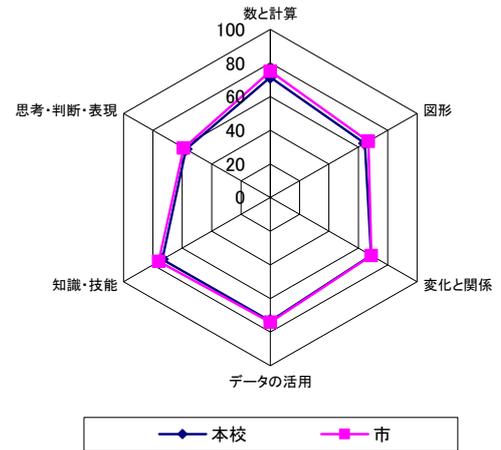
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|--|
| 国土の自然環境などの様子 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、73.6%と市の正答率より高い。 ○日本の主な地形についての問題の正答率は77.6%で、市の正答率を3.6ポイント上回った。 ●オーストラリアの位置と国旗についての問題の正答率は80.0%と比較的高かったが、市の正答率を1.1ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・社会科の時間だけでなく、様々な機会を捉えて話題にあげ、取り上げた国の位置を地図で確かめさせたり、雨温図などの資料の解説をしたりすることで、地理に対する関心を高め、自ら調べ、理解しようとする意欲と態度を育成するようにする。 |
| 農業や水産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、87.1%と市の正答率とほぼ同じである。 ○米の生産工程についてよく理解しており、正答率は85.9%で市の正答率を4.3ポイント上回った。 ●水産物の流通の工夫の問題の正答率は85.9%で市の正答率を2.3ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り考察する力を育てるために、引き続き、資料を基に社会的事象について説明したり、自分の言葉でまとめたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。 ・日本の食糧自給率や食料の輸入に関する事柄については、引き続き稲作体験や食育指導、家庭科と関連付けて指導していく。 |
| 工業生産 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、87.1%と市の正答率より高い。 ○日本の工業の特色についての問題の正答率は78.8%で市の正答率を5.4ポイント上回った。 ●自動車の製造工程に関する問題の正答率は88.2%と比較的高かったが、市の正答率を1.1ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の工業生産についての理解を更に深めるために、機会を捉えて、身近な工業製品や環境保全の取り組み(再利用など)についての話題や資料を提供し、自分の生活と工業を結び付けて考えられるようにする。 |
| 産業と情報との関わり | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、88.8%と市の正答率よりやや高い。 ○インターネットを利用するときの注意点については82.4%と市平均の正答率を3.3ポイント上回った。 ●メディアの特徴に関する問題の正答率は95.3%と高い正答率だったが、市平均の正答率を1ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、資料を読み取って考察する力を育てるために、資料を基に社会的事象について説明したり、自分の言葉でまとめたりする活動を授業で積極的に取り入れるようにする。 ・インターネットを利用するときの注意点や情報活用などの理解を高めるために、情報モラルやデジタルシティズンシップに関する授業を社会科以外でも計画的に実施するようにする。 |
| 日本の政治 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、72.1%と市の正答率より3.2ポイント高い。 ○全ての設問において市平均を上回った。特に日本国憲法の基本的人権の尊重については91.8%とよく理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本的な考え方を理解し、日本国憲法と政治や経済が、自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかについて考えたり調べたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。 ・自分たちの生活の場面やニュースなど身近な事象を話題にあげ、自分たちの生活が政治や経済と結びつけて考えられるようにする。 |
| 日本の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、68.2%と市の正答率より高い。 ○江戸幕府の鎖国政策についての正答率は市の正答率を7.9ポイント上回った。 ●古墳時代における支配者であるワカタケル「大王」について解答する問題の正答率は32.9%と市の正答率を17.6ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元や単元間における時間の経過・事象や人々の相互関係に着目させるだけでなく、その時代の文化についても時代背景などから考えさせ、学習内容や自分の考えをまとめる活動を続けていく。 |

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 71.5 | 75.1 | 75.8 |
| | 図形 | 64.4 | 66.8 | 68.3 |
| | 変化と関係 | 68.6 | 68.8 | 65.0 |
| | データの活用 | 73.4 | 74.1 | 63.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 73.6 | 76.1 | 75.8 |
| | 思考・判断・表現 | 57.5 | 59.0 | 51.7 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

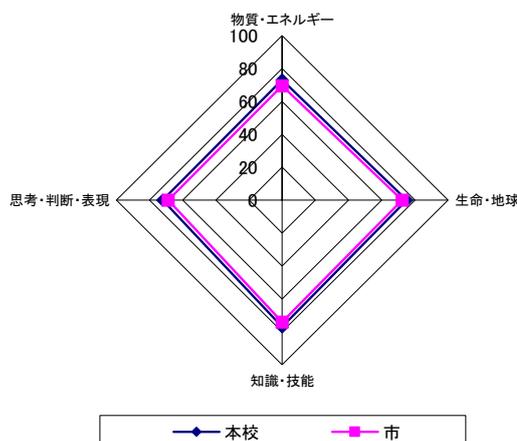
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|--|
| 数と計算 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、71.5%と市の正答率を下回っている。 ○「分数の計算」における、文章問題にあった図を選ぶ問題において、市の正答率を2.6ポイント上回っている。 ●「小数の計算」における、純小数同士の情報の計算青する問題では、市平均を14.3ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 文章問題にあった図を選ぶ問題においては、問題ごとに数直線での確認を繰り返し行ってきたことで、効果が現れていると考えられる。 純小数同士の計算においては、小数がある問題に触れる際に既習事項の確認を行い、計算の仕方の定着に努める。 |
| 図形 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、64.4%と市の正答率を下回っている。 ○「面積と体積」における、角柱の体積を求める問題において、市平均の正答率を8.5ポイント上回っている。 ●「面積と体積」における、高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積の式を選ぶ問題では、市の正答率を15ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 面積や体積の公式を繰り返し指導してきたことが効果に表れていると考えられる。 様々な形の三角形の問題に触れさせる機会を多く作り、底辺と高さを読み取る力の定着を図る。 |
| 変化と関係 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、68.6%と市の正答率と同程度である。 ○「単位量あたりの大きさ・速さ」における、速さと道のりから時間を求める問題では、市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ●「割合・割合のグラフ」における、基準量と比較量から割合を求める問題では、市の正答率を6.7ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題文やグラフの中から、基準量と比較量を的確に読み取ることができるように、問題場面をイメージし、数量の関係を捉えられるようにする。 |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、73.4%と市の正答率と同程度である。 ○「平均・データの見方」における、答えが小数になる分離量の平均を求める問題では、市の正答率を6.2ポイント上回っている。 ●「平均・データの見方」における、問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める問題では、市の正答率を6.3ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 解き方を文章で書き表すことに苦手意識を持っている児童も多くいるため、難易度の低い問題から記述で解き方を説明する機会を増やしていく必要がある。そして、書くことに慣れさせてから難易度を少しずつ上げていき、継続的に取り組む。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 73.1 | 69.5 | 65.2 |
| | 生命・地球 | 75.1 | 72.3 | 70.1 |
| 観点別 | 知識・技能 | 76.9 | 74.0 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 72.1 | 68.7 | 65.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.1%で市の正答率より高い。 ○「ふりこのきまり」の振り子の周期は振り子の長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを選ぶ問題では、市の正答率を13.7ポイント上回っており、良好な状況が見られる。 ●「電流のはたらき」の乾電池2個を使って電磁石を強くするために、直列つなぎにすることを作図する問題では、市の正答率を7.6ポイント下回っており、無答率も高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予想・計画を行う場面では、必要な実験手順や条件統制を考える活動を充実させ、文章や図でかく活動を多くすることで、自分の言葉で表現する力を養っていく。 ・電源装置を使う実験だけでなく、乾電池を使う実験も経験させるなど、体験を重視した授業を展開していく。 |
| 生命・地球 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は75.1%で市の正答率より高い。 ○「動物の体のつくりとはたらき」のかん臓のはたらきについて理解できているかを問う問題では、市の正答率を18.5ポイント上回っており、良好な状況が見られる。 ●「生物とかんきょう」の農家がテントウムシを畑に放す理由を食物連鎖をもとに推測して記述する問題では、市の正答率を6.4ポイント下回っており、無答率も高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題の設定→予想と計画→観察・実験→結果→考察→まとめという学習過程の中で、文章で表現する活動を多くすることで、自分の言葉で説明する力を養っていく。 ・できるだけ生きた教材に触れる機会を作るとともに、実際に見たり触れたりすることが難しい教材は、動画等を見せるなどして理解を深められるようにする。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立豊郷南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な学習を通して、表現力を高める国語科指導 特に、自分の考えをもち、書く力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 国語「書くこと」領域において、市の正答率を4.1ポイント下回っている。 「目的や意図に応じて書き表し方を工夫している。」の設問では、市の正答率を4.8ポイント上回っている。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・市の調査の6年国語では、領域別に見ると6つのうち4つの領域で市の正答率を上回っており、主体的・対話的な学習を通して、表現力の育成に取り組んできた結果であると考えられる。一方で、今年度の国・県・市の調査結果では、4～6年生すべての学年で「書くこと」の領域にまだ課題が見られることが分かる。国語だけでなくすべての教科において、書くことについての効果的な手立てを模索しながら、継続的に取り組んでいく必要がある。

・市の調査の6年において、「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」の肯定割合は、80%で市の肯定割合よりやや高かった。「書くこと」に関連して、自分の言葉で学習をまとめたり、ふり返りを書いたり話したりする機会を多く設けることで、さらに豊かな表現につなげていきたい。